

3 出土した遺物

遺物は、鎌倉～室町時代（13～15世紀）のものが出土しています。土器は、「かわらけ」と呼ばれる素焼きの土師質土器、珠洲焼・越前焼・瀬戸美濃焼など国産陶器、青磁・白磁など輸入磁器が出土しています。木製品は、曲物や杵形、箸などが出土しています。石器は、砥石や磨石が出土しています。その他、銭貨や金属製品、中～近世の陶磁器が出土しています。遺物はほとんど破損しているもので、多くが使用により壊れてしまい廃棄されたものと想定されます。まれにですが、接合作業により完全に近い形を復元できるものもあります。



かわらけ：13～15世紀

成形方法には手づくねやロクロを用いたものがあります。ロクロ成形には回転系切りの痕跡が、手づくね成形には指でおさえた痕跡が見えます。

4 まとめ

これまでの調査で13世紀中頃～15世紀後半を主体とする集落遺跡が明らかとなっていました。27年度調査により、水田跡の広がりも確認することができました。水田跡は北500mに位置する宝田遺跡と時期が同じで、区画や方向性などを比較検討できます。そのほか、東原町遺跡・丘江遺跡・角田遺跡・上原遺跡（集落跡）・たつかやま田塚山遺跡（寺院跡）などの中世遺跡が点在しています。これらの遺跡の動向も踏まえ、中世の鯖石川下流域扇状地における土地利用を解明していくことが今後重要となります。



すずやき 珠洲焼：13～15世紀

現在の石川県珠洲市の窯で焼かれた陶器です。片口鉢には線状の卸目が明瞭に見えます。



青磁：13～15世紀

見込み（内面の底部）に花など模様が施されるものがあります。青緑色の釉により美しく仕上げられており、当時の陶芸技術の高さがうかがえます。



木製品（杵形）

杵は地面を均す道具で本来柄を付けて用います。木製品は日常雑器が多く、箸や漆器の椀が溝や井戸から出土しています。

やまざき 柏崎市山崎遺跡現地説明会資料

資料 NO.

平成 27 年 9 月 12 日（土）

国土交通省 北陸地方整備局長岡国道事務所

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

藤村ヒューム管株式会社

1 はじめに

山崎遺跡は、柏崎平野北東部の鯖石川左岸に広がる水田地帯の南端、標高約 5.5m の扇状地先端に位置します。北側の水田域との比高は約 1m あり、やや小高くなります。平安～江戸時代にかけての集落が営まれていた遺跡です。

発掘調査は、一般国道8号柏崎バイパス事業に伴い実施しています。遺跡全体の調査対象面積は約 20,000 m²です。平成 23・26 年度に続き、平成 27 年度は4月から11月までの期間で、鎌倉～室町時代

代の集落跡や水田跡 5,820 m²を発掘調査しています。

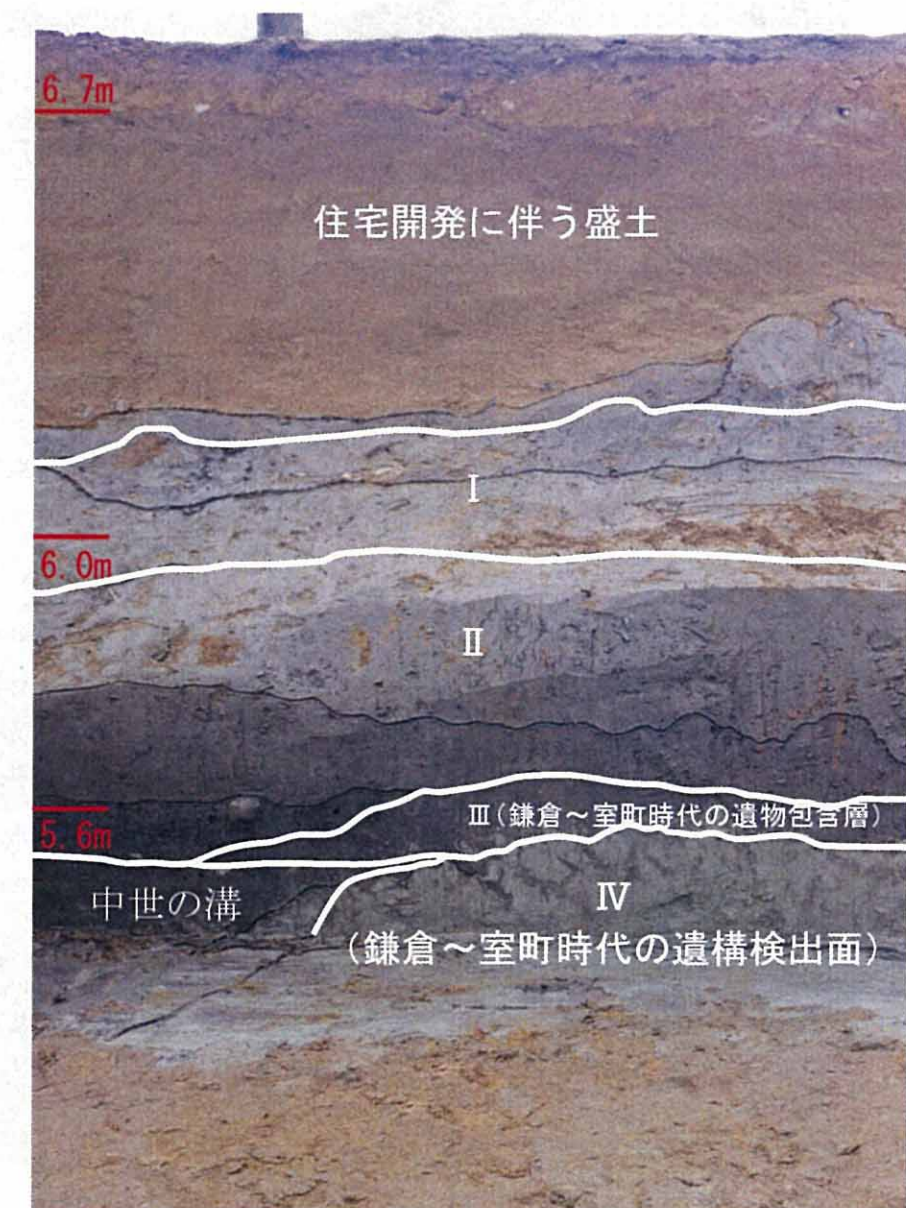
遺跡は現地表面から約 1.5m 下の標高 5.6～4.9m の深さで見つかります。調査区中央付近が微高地となり、南北両側へ向かって緩やかに低くなります。微高地の集落跡、低地の水田跡が標高約 5.2m を境に明瞭に分かれている様子が認められました。



遺跡の近景（北から）



山崎遺跡の位置と周辺の主な遺跡



遺跡の基本層序（埋没状況）